
ご主人様の愛

ガンガン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ご主人様の愛

【Nコード】

N2317F

【作者名】

ガンガン

【あらすじ】

ある一人の男、桜木真は、召し使いの綾咲愛と二人暮らしをしている。だがご主人様の真は、愛に・・・。

第一話：愛、愛

「ご主人様、飲み物を用意しました!」

「ありがとつ。お礼のキスだ!」

チユ・・・

こんなことをしている僕は、さくらぎまこと桜木真。実は僕には召し使いがいるんです!

その召し使いの名は、あやなきあい綾咲愛って言う超×200、かわゆすなんですよ!!!

僕は、この愛と夢のような二人だけの生活をしてるんすよオオオ!

「あん ご主人様ったら。」

そうすると、僕は何かの衝動に動かされて、愛の胸を掴んだ。

「なんて、柔らかいんだよ」この思いが脳の中に渦巻いた。

「ご、ご主人様、いけませんノノ」

「愛。ご主人様には逆らっちゃいけないんだよ」

僕は、なんて嫌なご主人様なんだろ。でも、もう止められないんだ。

許して、愛。

これも君への愛なんだよ。

「愛、柔らかいね!すごいよこの感触。愛、もっと揉んであげるね?」

愛は、顔を真っ赤にしてこちらを半目でみている。

「だ、だ、ダメですう。・・・。」

そんなこと聞く耳をもたずに、揉んでいる俺。

もみ、もみ

何回も言うようだが、柔らかい。

指が愛のおっぱいに食い込んでいく！

あれれ、おっぱいの真ん中にピンクのまるいものがあるな〜。

「あれれ、このピンクのは何だろうなあ〜？」

僕は、わざとらしくピンクの愛の【乳首】を人差し指で軽くはじく。

「愛、このピンクのものは、なんだい？？」

「あ〜んう ご主人様、う〜・私をいじめないでくだ・・あん・

・・さい！」

「いじめてなんかいいよ〜。そんなことを言った罰として・・・。

」

チュパチュパチュパ・・チューーっパ

愛の乳首を思いっきり吸った。いや吸いまくったと言うべきかなあ？

「う〜んう 乳首が・・うんっ ・・あ〜ん」

乳首が僕の舌でころがる！

舐めれば舐めるほど、愛は感じてる。

「そんなこと言った、愛が悪いんだよ？・・チュパ、ぺろぺろ。」

「許して・・あん ください。ご、あ〜ん／＼ご主人様あ〜！」

「だ〜〜〜め」

僕は本当になんて最低な人間なんだろうか。

こんな可愛い子を涙目にさせるほどにやってしまっなんて。

でも、まだ終わらないよ！愛〜〜

僕は、愛のスカートをめくり、愛のパンツを見た。

可愛い水玉模様のパンツが僕の視線を誘ってくる。

ぬがしちゃえ！！

マンコが！

びっくりした、こんなに濡れているとは！

愛は、そんなに感じていたとは！！

でも、なんかうれしいな。僕のプレイでこんなに感じてくれるなんて。

「愛、こんなに濡らしちゃって！いけない子だな〜。」

愛は、震えた声で、

「だ・・だって、ご、ご主人様とエッチしてると思うと．．．」

「なんだい？」

「うれしくて．．．だ、大好きなご主人様とやっけるとうれしくて！我慢できなくてっ」

「愛．．．。」

愛が、大好きなご主人様って．．．やっけるとうれしい．．．．。

感動だあああああ！

愛は、俺が大好きなんだあああああ！！

「ご．．．ご主人様、いれてくれますか？私のあそこに．．．／／」

「もちろんさ、愛」

僕のギンギンのペニスを、愛のマンコに．．．、

そくにゆ〜〜う

「あ〜〜ん いたい、いたい．．．でも、ご主人様のあれが．．．、うれしい」

「ゆらすよ？」

「は、はい」

僕は、押さえ切れない快感を全神経を集中させて、我慢する。
ここであしたら・・・いけないんだアアアア！

ジュボ、ブシュブシュ

「あゝ 気持ちいいですうゝゝ ご主人様ゝゝ。」

「僕も、ハアハア、気持ち・・・ハアハア・・・いいよ、愛。」
ちくしょー、でてしまう。

これを取り越えたら、さらにすごい快感がきそうなのに、
我慢できない、もうだめだアアアア！

ジュボ、ジュボ、ドゥピードゥピードゥピー

「あゝゝゝゝゝゝゝゝん 、ご主人さ、あゝゝゝん」

果てた。

続く

第二話：お風呂で（前書き）

この小説は、エロですので・・・。

まあ、つまらん確立がたかーいのでその点を注意して、読んで下さい。

では、どうぞ！

第二話：お風呂で

「昨日は、気持ちよかったな〜」。――

昨日した愛とのエッチが忘れられなかった。

あのおっぱい、乳首……。――

僕は、またエロス衝動にかけられそうになったが、今は仕事だから我慢せねば。

せめて、仕事が終わった後に……。――

「ただいまですう」。――

あつ！愛しき愛が買い物から帰って来た。

「おかえり、愛。」

「今日のご飯は、カレーですから楽しみに待っててくださいね」

あゝ、なんて可愛いんだあゝ〜。

あの、ぷるぷるしたいかにも柔らかそうな、愛の唇……。――
吸い付きたい、舐めたい…………。

我慢できない！

チュ、チューウ

「あん ご主人様、今は、工作中。仕事が終わった後にも…………。

――

「我慢できないんだよ。チュウーチュパ…………。」

僕の職業は、漫画家でちゃんとある、漫画雑誌で連載されている。

その漫画は、こう見えて、普通のバトルものです。けして、エロ漫画では無い。

そんなことより……。――舌を入れてやるよ〜！

「チュパ、チューウ、ご、ご主人様〜ん」――

僕の唇と愛の唇が絡まりじゃれあう。

たまらん、もう一回言っ。

たまらん！

でも、仕事にもどらなきゃ。

締め切りは、明日の朝！時間が無い……。

スツ……。

唇を離した。

「で……では、食事を作ってきますね……。」

「う、うん……。」

なんか、気まずい空気……。

そりゃ、そうか。いきなりキスしたんだし……。

こうして、僕は仕事に戻った。

でも、集中ができない。愛のことで頭がいっぱいで、パンクしそうだ。

「は……、まったく描けない。全然描けない！」

その時、

「ご飯ですよ、ご主人様……！」

ご飯かあ。たしか、カレーとか言ってたな、たしか。

「わっかたよ、今すぐいくから……。」

僕は、勢いよく階段を降りてった。

愛が僕の前にカレーを置く。

なんていい匂いなんだろ、そして、愛の香りも……↑ただの変態
早速、カレーを口にはこんだ。

「どうですか、ご主人様？」

「……。」

「ご主人様？」

愛の手作りカレーは、拍子抜けするほど、うますぎた！
このちょうどいい辛さと具の硬さ。

「ありがとうございます
うれしいです」

愛は、満面の笑みで、

こうして、僕は調子にのって6杯もおかわりをした。

食いすぎたけど、おいしすぎた。

愛の味・・・。

僕は、仕事にもどった。

休んでなんかられない、もしも完成しなかったら、出版社の奴らがうるさいから。

ってことで、黙々と描き始めた。

ついに、描き終えた……。もう、深夜1時だった。疲労が体の全

身から湧き出るように、もう限界だった。

「風呂にでも、入るかなあ。」

そう言う、僕は服を脱ぎ風呂に入った。シャワーのスイッチを押し、体を洗う。

その瞬間、風呂のドアが開いて・・・、
「ご主人様、体をお洗います／＼」

「あ、あ、愛！」

そこには、裸の愛が、
裸の愛が！

「愛、どうして？」

「ご主人様の為に・・・。」

いきなり愛が石けんを取り、僕の後ろに回りこんだ。

「洗いますね」

愛が僕に石けんをつけ始めた。

お腹、足、手、そして、

「ここも・・・。すりすり。」

愛が僕のチンコに石けんを・・・つけた！

「お、おい。うつ／＼」

愛は、石けんを置き僕のチンコを持ち、上下に、

「う、うつん／＼あ、愛、なに・・・うつ／＼すんだよ！」

揺らした。

「ご主人様、気持ちいいですか？」

揺らす速度がだんだん速くなっている。

すごい快感！

あの愛にチンコを揺らされているから・・・。

「気持ちいい、すっごく気持ちいいよ、愛 う～～ん」

「よかったです 気持ちよかったですみたいで」

気持ちいい！

なんかもう、でちまうかも知れない。

だがその前に、

僕は、後ろ向きになって、愛の乳首を吸った。

ちゅぱ、ちゅーっぱちゅぱ

「ご、ご主人様~~~~ん あん、あ〜ん」

舐め回す、吸いまくる。

この動作を繰り返した。

「愛、お風呂に入ろうか！」

「はい」

ザバーン

こうして、僕と愛は、風呂に入った。

「気持ちいいね〜」。

「そう・・・あん」

僕は、愛の喋りの途中でまた乳首に吸い付いた。

ああ、おいしいなあ。

「ちゅぱちゅぱ、愛、おいしいでちゅ」

いきなり、赤ちゃん言葉に。

これも一種の甘えです、分かつてください。

「なら、もっと吸っていいですよ・・・う~~~~ん」

チュパちゅぱチュパちゅぱ

あゝ、幸せだあああ！

僕は、愛を持ち上げ、風呂の角のところにのせ、

愛のマンコに舌をのばした。

「ぺろぺろちゅーう、愛の・・・やっぱおいしい」

「うつ・・・あ~~~~ん 私も、き、うつ~~~~ん 気持ちいいですう」

僕は、舐めるのをやめて、愛の唇に一回、口付けをして、

「大好きだよ、愛・・・チュ・・・。」
そしてまたながーいキスを・・・。

翌朝

僕は、出版社の人に漫画の奴をわたした。

「桜木さん、またよろしくです!」

そう言って出版社の人は、帰って行った・・・。

「ご主人様、朝食ですよ」

「うん!」

こうして、またいつもと同じ朝が来た。

続く

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2317f/>

ご主人様の愛

2011年1月15日02時50分発行